

令和2年度厚生労働科学研究費補助金

(障害者政策総合研究事業)

総括研究報告書

就労継続支援B型事業所における精神障害者等に対する支援の実態と  
効果的な支援プログラム開発に関する研究1・2

研究代表者 八重田 淳 所属 筑波大学人間系

研究要旨

本研究は、全国のB型事業所を対象に精神障害のある利用者の利用時間、通所日数、工賃等の実態、そしてB型事業所における精神障害のある利用者の工賃向上のために取り組まれている工夫並びに実践の現状と課題を把握し、効果的な支援プログラムの開発とプログラム実施マニュアルを作成し、様々な地域におけるB型事業所での活用可能性を探ることを目的とし、B型事業所の精神障害者を対象とした質的・量的調査を実施し、データを複合的に分析した。また、秋田県、岩手県、茨城県、宮城県、新潟県、中国・四国・九州・沖縄地方における質的・量的研究をそれぞれ実施した。さらに、B型事業所の精神障害者のディーセントワークをベースとした支援プログラムとマネジメントガイドラインを開発した。ここでは、B型事業所の精神障害者を対象とした質的・量的調査結果を報告する。

**研究分担者:** ①砂見緩子 (帝京大学医療技術学部教授)、②山口創生 (国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所)、③小澤温 (筑波大学人間系教授)、④小澤昭彦 (岩手県立大学社会福祉学部大学院社会福祉学研究科教授)、⑤若林功 (常盤大学社会福祉学部大学院社会福祉学研究科准教授)、⑥山口明日香 (高松大学発達科学部准教授)、⑦藤川真由 (慶應義塾大学医学部精神・神経科学特任助教)、⑧北上守俊 (新潟医療福祉大学リハビリテーション学部助教)、⑨前原和明 (秋田大学教育文化学部准教授)

**A. 研究目的**

本研究は、障害特性等に合わせた適切な支援により、利用者の利用時間・日数の増加、および利用者の工賃向上を実現した実績のある就労継続支援B型事業所(以下、B型事業所とする)における支援内容や工夫等を整理し、効果的な支援プログラムを開発し、その実施マニュアルを作成するものである。

B型事業所は、障害のある者がその適性に依りて能力を十分に発揮し、地域で自立した生活を実現するために重要なサービスであり、利用者に支払う工賃水準の向上に努めることが求められている。平成30年度の報酬改定では、B型事業所における利用者への支払い工賃が高いほど、利用者の自立した日常生活や社会生活に繋がる可能性を鑑み、平均月額工賃による報酬区分が設定された。本報酬改定に対しては、B型事業所からの、①障害特性等により短時間や少ない日数の利用しかできず、その結果月額工賃を高くすることができないとの主張がある一方で、②精神障害者など長期間にわたる社会参加が困難で、かつ当初は短時間や少ない日数の利用者であっても、適切な支援により時間・日数を徐々に増やすことができるとの主張もある。

本研究では、上記②のB型事業所の支援手法を分析し、①のB型事業所であっても②の取組を実施できるための方策を提案することにより、結果として平均月額工賃の向上に資するものとする。B型事業所における工賃向上のためには様々な営業努力や工夫が必要であり、厚生労働省では工賃向上計画支援等事業による経営力育成支援や品質向上支援の実施に加え、各種調査研究事業による高工賃を実現している好事例の収集と周知などの取組がなされてきた。しかし、障害特性等に合わせた適切な支援を行うことにより利用時間や通所日数が増え、それが工賃向上にも繋がることに焦点をあてた調査研究は行われていない。

そこで最終年度の研究では、B型事業所を利用する精神障害者を対象に、事業所工賃、利用時間と通所日数、適切な支援に対する見解、働きがい、地域生活活動について質的・量的調査を実施し、工賃向上につながる要因を調べ、効果的な支援プログラム開発の基礎資料とすることを目的とした。

**B. 研究方法**

本研究は、神奈川県におけるB型事業所を利用する精神障害者への面接調査と、全国で特に精神障害のある利

用者を多く持つB型事業所を利用する精神障害者に対する郵送調査を行った。同時に、秋田県、岩手県、茨城県、宮城県、新潟県、中国・四国・九州・沖縄地方における質的・量的研究を実施した（詳細は各分担研究報告を参照）。

## （1）質的研究

### 1) 対象とデータ収集方法

面接調査における対象者10名は、B型事業所の利用時間が比較的多い精神障害者である。面接は事前に設定した日時に、先方の指定する場所で行った。その際に研究責任者が研究内容および研究倫理的配慮事項等を説明し、研究協力の同意が得られた場合、研究協力者による同意の署名と、説明者による説明の署名を得た。

なお、当該事業所でサービスを利用する精神障害者に対する訪問面接調査においては、感染予防対策としてシールドを置き、マスクを双方が着用し、施設側と協力して事前に確認して行う。なお、実際の面接時間はいずれの場合も60分以内とした。

### 2) インタビューガイド

- (ア) 現在の事業所の利用日数についてどう思いますか？
- (イ) 現在の工賃についてどう思いますか？
- (ウ) 現在のあなたの総収入のうち自由に使える交際費に余裕はありますか？
- (エ) 現在の事業所におけるあなたの働きがいとは何ですか？
- (オ) A型事業所や一般企業就職への関心はありますか？
- (カ) 事業所に行きたくないと思うときは、どのようにして過ごされていますか？
- (キ) あなたが幸せに感じる時はどんな時ですか？
- (ク) 仕事以外ではどのような地域活動をされていますか？
- (ケ) それらの地域活動は事業所利用の動機になっていますか？

### 3) データ分析手法

予め同意を得て録音された面接内容の逐語録の内容分析を実施した。

## （2）量的研究

### 1) 調査票の作成

調査票の作成にあたり、前年度実施した調査結果と先行研究を踏まえた設問項目を本研究構成員の協力を得てリストアップし、答えやすい内容のものを厳選し、複数回改変した。

作成された調査票の回答のしやすさを判断するために、B型事業所を利用する精神障害のある研究協力者5名を研究協力者から紹介していただき、フォーカスグル

ープインタビューを実施した。まず、研究協力者（精神障害のある当事者）には、ウォーミングアップとして「社会参加のイメージ」と「精神障害者の社会参加」について意見を伺った上で、調査票内容と回答のしやすさについて伺うこととした。集約された意見を下記に示す。

- ・自分でやる気があるなら社会参加したほうがいい、社会参加には見返りがある、満足感もある、人から認められる。
- ・世間の人がどれだけ受け入れてくれるか。一般の人は「あいつは障害者だ」とか言ってくる。障害者というレッテルは取れない。
- ・精神障害者に対する偏見はある。以前勤めた職場で精神障害者をどう扱っていいかわからないと言われた。社会の偏見は強い。
- ・就労は難しいかもしれないが、偏見なんて言葉はない。あるのは無知と誤解。偏見を言い訳にしているといけない。周りに理解してもらう努力が必要。
- ・障害があると活動範囲が狭まる。新型コロナで社会参加が制限され調子を崩す人もいる。

次に、B型事業所利用の関する調査内容と回答のしやすさについて意見を伺った。なお、調査票には精神障害者の地域活動を評価する尺度（TUCPII-J）の内容妥当性についても同様に意見を伺った。TUCPIIとは、米国テンプル大学で開発された精神障害者地域活動評価尺度であり、尺度の妥当性と信頼性が示されている。この日本語版開発に当たり、米国の研究者2名と本研究構成員全員と研究協力者3名による協力を得て作成した。

### 2) 調査内容

最終的な調査票の調査内容は、利用者の性別（男性、女性、その他の性自認）、年代、利用者の事業所利用日数、利用日数に対する感想、利用日数増加希望、調査時点での前月における工賃月額、工賃月額に対する感想、月額に対する増加希望、B型事業所工賃以外の収入に対する満足感、現時点での総収入のうち自由に使える金額、自由に使える希望金額、事業所での働き街、ステップアップへの希望、一般企業への就職関心、最低賃金以上の仕事への関心、月曜～金曜のうち事業所に行きたくない曜日の有無、事業所に行きたくないと思う理由、どのような時に笑顔になるかについての質問、事業所による具体的な支援に対する効果期待度、働きがいを感じる要因、仕事以外に希望すること、希望する支援内容である。これらに加え、精神障害者地域活動評価尺度 TUCPII 日本語版による質問内容として、スタッフの付き添いなしで行う地域活動（27項目）の時間・充実度・重要度、結婚やパートナーの有無、そのパートナーとの一月の対面日数・充実度・重要度、子供の有無・同居の有無・面会日

数・充実度・重要度について伺った。

### 3) 調査手続き

本研究協力機関であるセルフ協会における精神利用者の多い事業所に人数分調査票を送付し、該当利用者分の調査票を調査協力依頼の手紙、返信用封筒とともに同封し、事業所で利用者に配布して頂き、厳封で調査票を回収後に事業所から一括返送を依頼した。除外基準として、発達障害を有する者、知的障害を有する者を除いた。サンプル数の補足が生じた際には、県の精神保健福祉センター、本研究共同研究者あるいは研究協力者（秋田、岩手、茨城、宮城、福島、東京、神奈川、埼玉、大阪、兵庫、香川、熊本等）による追加調査を検討し、サンプル数を確保することとした。

量的データの分析には記述統計と推測統計を用いた。（倫理面への配慮）

1. 面接調査「就労継続支援 B 型事業所における精神障害者等に対する支援の実態と効果的な支援プログラム開発に関する研究 1(2020 年度)」は、筑波大学人間系研究倫理委員会東京地区委員会の承認を受けて実施した（課題番号第東 2020-81 号、令和 2 年 11 月 25 日）。
2. 郵送調査「就労継続支援 B 型事業所における精神障害者等に対する支援の実態と効果的な支援プログラム開発に関する研究 2(2020 年度)」は、筑波大学人間系研究倫理委員会東京地区委員会の承認を受けて実施した（課題番号第東 2020-82 号、令和 2 年 11 月 25 日）。

## C. 研究結果

### (1) 主な質的調査研究の結果

質的研究では、都市部の 4 つの B 型事業所を利用する精神障害者で、調査当時において通所日数の安定している利用者 10 名を対象に、半構造化面接により、B 型事業所の利用や工賃に対する思い、働きがい、一般企業就職への関心、B 型事業所利用の阻害・促進要因を探った。

その結果、(1) ルーティンをもつことによる通所に対する懸念の軽減と現実的な目標設定、(2) 利用者本人にとっての作業の価値や通所の意味づけを見出すことによる通所継続の強化が必要であることが明らかとなった。（詳細は分担研究報告を参照）。

### (2) 主な量的調査研究の結果

就労継続 B 型事業所（以下、B 型事業所）の利用者における工賃や収入、働きがいに関する実態を検証することを目的とした。具体的には、37 の B 型事業所における利用者（n=326）を対象とした横断調査データを分析し、記述統計を示し、働きがいと工賃や総収入に関する充足感などとの関連を検証した。調査の結果、回答者は、現在の活動日数などに不満を持つことは多くないが、現在の工賃額や総収入に対して満足していないことが明らかになった。回答者の工賃に関して、10,000～15,000 円未満（20.8%）の金額帯の割合が最も多く、希望する工賃額

として最も多い金額帯は、30,000～45,000 円未満であった（22.5%）。すなわち、現実の工賃額と希望の工賃額の差は約 20,000 円ほどであった。また、工賃に直接関係しない質問項目も含め全体的な回答傾向として、ステップアップや最低賃金を得る活動への関心、経済的支援の必要性など、収入や経済的な問題についての回答割合が高いことが特徴であった。特に働きがいについては、B 型事業所における工賃の高低というより、総収入に対する充足感が強く関連していた（ $B = 0.140$ ,  $95\%CI = 0.044$ ,  $0.236$ ,  $P = 0.004$ ）（詳細は分担研究報告を参照）。

## D. 考察

質的調査の結果、B 型事業所を利用する精神障害者の作業習慣化、現実的な目標設定、体力の向上を図る支援プログラムの充実化が課題として挙げられた。通所の初期段階における介入は非常に大切であり、この時期にどれだけ作業習慣を身につけることができるかが、その後の継続利用に影響を及ぼし得ることが示唆された。具体的には、作業ルーティンをもつことで通所に対する懸念や通所への抵抗感を少なくすること、自分のペースで作業ができること、苦手意識を取り除くことなどである。また通所を継続するための体力向上支援も、通所継続とステップアップに繋がり得ることが示唆された。

量的調査の結果、利用者は過去 30 日間における B 型事業所の利用日数に対し、50%以上が 16 日以上と回答し、作業日数に対しては 4 人に 3 人が普通と感じているものの、半数以上は工賃月額が少なく経済的な充足感を感じていないことがわかった。この結果からは、利用日数を単純に増加すれば良いというわけではないことが推測される。また、一般企業への就職には半数以上が関心を持っているものの、A 型事業所、就労移行支援事業所、一般雇用のステップアップに対しては、3 割近くが希望していないという事実も見逃せない。B 型事業所と就労移行支援事業所の併用、B 型事業所の通所と一般企業での就労の両立、B 型事業所に通所しながらステップアップが可能となるシステムの整備も課題となる。

精神障害者の就労を継続的に支援しようとする場合、働きがいが必要な視点として考えられる。利用者が働きがいを感じる時は、「誰かの役に立っていると感じる時」「仕事が楽しい時」「収入を多く得た時」「仕事を褒められた時」「人間関係がうまく行っている時」「仕事に没頭している時」が多く、これら 6 項目については半数以上の回答を得た。社会的意義があり、楽しく、没頭できるという 3 要因が幸福に関係することは、ポジティブ心理学で示されているが、本研究で得られた 6 項目は、これらの 3 要因を含んでいる。働きがいは、仕事以外での活動からも影響を受けられると思われる。仕事以外で希望することとして、利用者は「運動・スポーツでもっと体を動かしたい」「なんでも話せる人にそばにいて欲しい」「趣味や特技をもっと楽しめる方法を身につけた

い」「一人でも楽しめる方法を知りたい」「もっと色々なことを勉強したい」「自然に触れるような旅をしたい」「偏見なくふつうに自然に接して欲しい」「オシャレをして外に出かけたい」などに対しては、半数以上がこれを希望していることも調査結果からは明らかとなった。その反面で、2～3割近くの利用者は特にそれらを希望しているわけではないため、仕事以外の地域活動生活実態（買い物、食事、エンターテインメント参加、運動実施、家族・友人との交流等）の頻度・充実度・重要性との関連性については、今後さらに分析する必要がある。

2. 実用新案登録  
なし  
3. その他  
なし

## E. 結論

前年度に実施された B 型事業所サービス管理責任者を対象とした本研究の調査結果から得られた「効果が期待される支援」の 8 項目（出勤時間の柔軟性、休憩スペースの確保、作業と休憩のバランス、家族とキーパーソンの強力、体調に応じた作業調整、コミュニケーションの適宜性、作業同盟、寛容な職場風土作り）に対して、今年度実施した精神障害のある利用者調査では、7割以上の利用者がこれらの支援効果が期待できるとしている。単に効果が期待できるという双方の主観的な評価のみで「効果的な支援プログラム」を構築することにはもちろん限界があるが、少なくともこれらの項目はプログラム開発をする上で基本的な情報となり得る。

また、本研究では 84% の利用者が B 型事業所を働きがいのある場所として認識していることが判明したが、働きがいに対する認識のみではなく、今後は、B 型事業所以外での働きがいに焦点を当てた研究として、例えば、B 型事業所での働きがいが地域での働きがいとどの程度寄与し得るものか、どの程度のワークライフバランスが最も望ましいかといった研究設問に対する答えを探ることが望まれる。さらに、B 型事業所から段階的に就労支援機関を上がって一般就労にたどり着くという長期的なステップアップ以外のサービスプロセスはどの程度有効であるかを探る研究課題が考えられる。

## F. 健康危険情報

特になし

## G. 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表  
なし

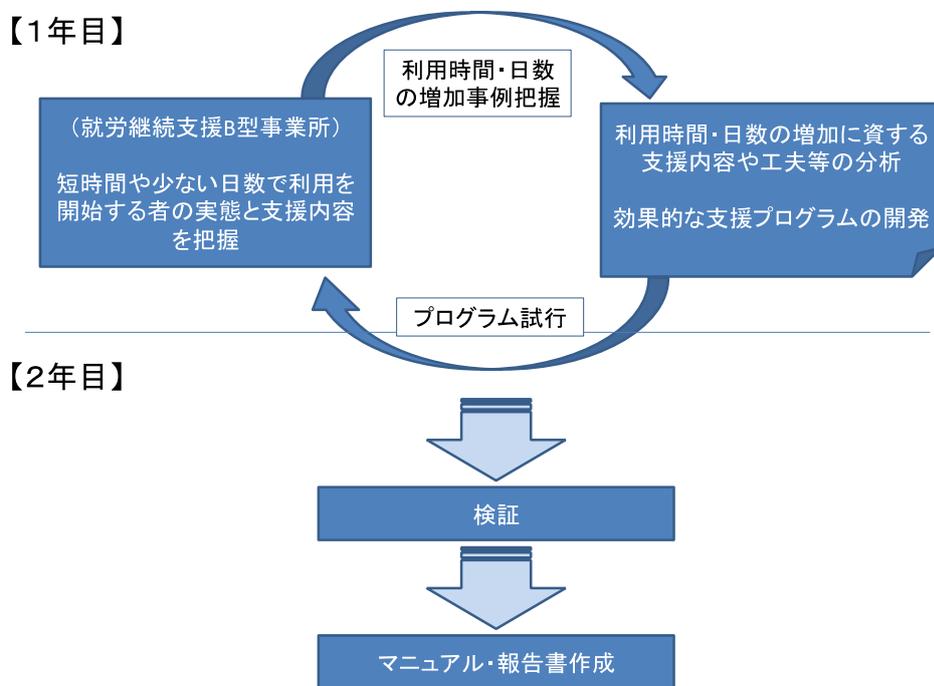
## H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし

## 資料1 具体的な研究実施計画書

「就労継続支援 B 型事業所における精神障害者等に対する支援の実態と効果的な支援プログラム開発に関する研究 1」（2020 年度; 下図の 2 年目に該当）

### 1. 研究デザイン



### 2. データ収集方法

#### (1) 面接調査

研究対象者 10 名のうち、まず、A 事業所における 5 名の精神障害者には TUCPII-J の回答のしやすさに関するフォーカスグループインタビューへの協力を依頼する。この結果を踏まえ、残りの 5 名の B 型事業所を利用する精神障害者に対しては、地域参加活動が B 型事業所利用に及ぼす影響、月額工賃と作業内容とのマッチング、地域参加と事業所サービス利用の向上に関わる動機等についてインタビューガイドを用いて把握する。就業継続要因や働きがいに焦点を当てた面接調査研究対象者 5 名は、利用時間が比較的多い精神障害のある利用者であり、特徴的な実践を行っている複数事業所の施設長に対し、利用者面接への協力依頼を行う。面接は事前に設定した日時に、先方の指定する場所で行う。その際に研究責任者が研究内容および研究倫理的配慮事項等を説明し、研究協力の同意が得られた場合、研究協力者による同意の署名と、説明者による説明の署名を得る。なお、当該事業所でサービスを利用する精神障害者に対する訪問面接調査においては、感染予防対策としてシールドを置き、マスクを双方が着用し、施設側と協力して事前に確認して行う。なお、面接時間はいずれの場合も 45 分以内とする。

#### (2) 面接調査手続き

- ① 研究対象者：都市部の B 型事業所で就業されている利用者 5 名
- ② 調査方法：1 名の利用者に対して、インタビューを 2 回実施（期間をにおいて、2 回目にはお話しいただいたことへの確認をさせて頂く）
- ③ 調査内容：B 型事業所への通所継続要因（インタビューガイド）
- ④ 分析焦点：通所継続要因を社会心理学的に考察する社会心理学的考察とは、通所継続という行動を、利用者である個人が、集団との相互作用のなかで、どのような条件のもとで示すことができるのか否か、を考察する。

- ⑤ 条件として、生活の中での就労の意味づけや感情といった個人の中における条件、B型事業所の環境要因やその相互作用といった条件を、丁寧に記述する。
- ⑥ 手続き：事前にB型事業所の責任者と、利用者の選定、インタビューの場所や時間、後方支援について入念に打ち合わせを行う。
- ⑦ インタビューまでにB型事業所に数回通所し、利用者とともに就労を行うことも検討する（利用者との信頼関係の構築、および利用者の就労への思いなどを参与観察することがねらい）。

様

研究責任者 筑波大学人間系 准教授 八重田 淳

面接研究ご協力について（ご依頼）

拝啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、この度 2020 年度厚生労働科学研究費補助金「就労継続支援 B 型事業所における精神障害者等に対する支援の実態と効果的な支援プログラム開発に関する研究 1」(19GC0601) を継続して執り行うこととなりました。

つきましては、下記の目的による調査研究へのご協力を頂きますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

なお、面接内容については、以下に示すような研究協力者のプライバシー保護および、倫理的配慮について遵守しますので、ご安心頂ければ幸いです。本調査への協力にご承諾をいただける場合には、お手数ですが、別添の承諾書にご記入の上、ご返送ください。本研究の趣旨をご理解の上、どうぞご協力頂きたく、ご依頼申し上げます。

敬具

記

1. 実施責任者 筑波大学人間系 准教授 八重田 淳

連絡先：E-mail：jyaeda@human.tsukuba.ac.jp Tel：03-3942-6830

調査名と目的

調査名：就労継続支援 B 型事業所における精神障害者等に対する支援の実態と効果的な支援プログラム開発に関する研究 1 (2020 年度)

目的：全国の B 型事業所を利用している精神障害者の方々を対象に、B 型事業所利用状況に関する半構造化面接を実施し、地域参加活動が B 型事業所利用に及ぼす影響、月額工賃と作業内容とのマッチング、地域参加と事業所サービス利用の向上に関わる動機などを把握することを目的とします。

2. 面接の方法：利用者の体調などを考慮し、最大 45 分以内の面接時間とし、インタビューガイドの面接項目の問いに対して自由に話して頂きます。

3. プライバシーの保護

- ・ 面接内容はプライバシーに配慮した処理を行い、個人が特定される形で結果を報告しません。
- ・ 研究協力者の面接内容や個別情報については、守秘義務を遵守します。
- ・ インタビュー調査時の録音は、調査協力者の同意が得られた場合にのみ行います。
- ・ 面接中のメモや録音記録（面接データ）の管理については細心の注意を払い、研究終了後、一定期間経過後に粉砕・廃棄します。
- ・ 録音は実施分担者のみが聞いて文章に起こし、分析はその文字データを用います。
- ・ 面接データは個人を特定できないように番号化して入力され、特定の USB メモリーに保存して施錠ができる引き出しで厳重に保管した上で、研究終了後、一定期間経過後に粉砕・廃棄します。
- ・ 面接結果は統計的に処理された上で、学会発表や学会誌に発表されますが、発表の際には個人が特定できない形態で行います

4. 倫理的配慮について

- ・ 面接調査へのご協力は自由意思によります。
- ・ 回答したくない質問がありましたら、無理に回答する必要はありません。
- ・ 回答を途中で止めなくなった場合には止めても、ご協力を撤回してもいかなる不利益も生じません。
- ・ 研究の内容にご意見ご質問がありましたら、実施責任者にお尋ねください。
- ・ 研究へのご協力については、依頼書に基づいて口頭および文書で説明を行い、同意書のご署名により同

意を頂いたものとして実施いたします。

5. 調査に関するお問い合わせ先

研究責任者 筑波大学人間系 准教授 八重田 淳

連絡先：E-mail：jyaeda@human.tsukuba.ac.jp Tel：03-3942-6830

本研究は筑波大学人間系研究倫理委員会東京地区委員会の承認を受けて実施しております。本研究の倫理的な問題につきましては、筑波大学人間系研究倫理委員会東京地区委員会（社会人大学院等支援室・研究支援担当）までご連絡ください。

筑波大学社会人大学院等支援室・研究支援担当

連絡先 Tel：03-3942-6919, E-mail:hitorinri@un.tsukuba.ac.jp

筑波大学人間系長 殿

## 承 諾 書

「就労継続支援 B 型事業所における精神障害者等に対する支援の実態と効果的な支援プログラム開発に関する研究 1」にかかる調査について、説明者より研究内容について書面および口頭により説明を受け、内容を理解した上で調査に協力することを承諾しました。

令和 年 月 日

組織または団体名： \_\_\_\_\_

代表者氏名： \_\_\_\_\_

「就労継続支援 B 型事業所における精神障害者等に対する支援の実態と効果的な支援プログラム開発に関する研究 1」(2020 年度)にかかる調査について、書面および口頭により令和 年 月 日に説明を行い、上記の通り承諾を得ました。

説明者：筑波大学人間系 准教授

氏 名： \_\_\_\_\_

筑波大学人間系長 殿

## 承 諾 撤 回 書

「就労継続支援B型事業所における精神障害者等に対する支援の実態と効果的な支援プログラム開発に関する研究1」にかかる調査について、説明者より研究内容について書面により説明を受け、内容を理解した上で調査に協力することを承諾しましたが、再度検討した結果、承諾を撤回いたします。

\_\_\_\_年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日

組織または団体名：\_\_\_\_\_

代表者氏名：\_\_\_\_\_

様

研究責任者  
筑波大学人間系 准教授 八重田 淳

面接研究ご協力について（ご依頼）

拝啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、この度 2020 年度厚生労働科学研究費補助金「就労継続支援 B 型事業所における精神障害者等に対する支援の実態と効果的な支援プログラム開発に関する研究 1」(19GC0601) を継続して執り行うこととなりました。

つきましては、下記の目的による調査研究へのご協力を頂きますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

なお、面接内容については、以下に示すような研究協力者のプライバシー保護および、倫理的配慮について遵守しますので、ご安心頂ければ幸いです。本調査への協力にご承諾をいただける場合には、お手数ですが、別添の承諾書にご記入の上、ご返送ください。本研究の趣旨をご理解の上、どうぞご協力頂きたく、ご依頼申し上げます。

敬具

記

1. 実施責任者 筑波大学人間系 准教授 八重田 淳

連絡先：E-mail：jyaeda@human.tsukuba.ac.jp Tel：03-3942-6830

調査名と目的

調査名：就労継続支援 B 型事業所における精神障害者等に対する支援の実態と効果的な支援プログラム開発に関する研究 1 (2020 年度)

目的：全国の B 型事業所を利用している精神障害者の方々を対象に、B 型事業所利用状況に関する半構造化面接を実施し、地域参加活動が B 型事業所利用に及ぼす影響、月額工賃と作業内容とのマッチング、地域参加と事業所サービス利用の向上に関わる動機などを把握することを目的とします。

2. 面接の方法：利用者の体調などを考慮し、最大 45 分以内の面接時間とし、インタビューガイドの面接項目の問いに対して自由に話して頂きます。

参加者：B 型事業所を利用する精神障害者 5 名

期間：2021 年 1 月から 3 月の予定

時間：45 分以内

質問内容：インタビューガイドに沿って自由に回答していただく

場所：プライバシーが確保される場所をご指定いただければお伺いします

3. プライバシーの保護

- ・ 面接内容はプライバシーに配慮した処理を行い、個人が特定される形で結果を報告しません。
- ・ 研究協力者の面接内容や個別情報については、守秘義務を遵守します。
- ・ インタビュー調査時の録音は、調査協力者の同意が得られた場合にのみ行います。
- ・ 面接中のメモや録音記録（面接データ）の管理については細心の注意を払い、研究終了後、一定期間経過後に粉砕・廃棄します。
- ・ 録音は実施分担者のみが聞いて文章に起こし、分析はその文字データを用います。
- ・ 面接データは個人を特定できないように番号化して入力され、特定の USB メモリーに保存して施錠ができる引き出しで厳重に保管した上で、研究終了後、一定期間経過後に粉砕・廃棄します。
- ・ 面接結果は統計的に処理された上で、学会発表や学会誌に発表されますが、発表の際には個人が特定できない形態で行います

#### 4. 倫理的配慮について

- ・ 面接調査へのご協力は自由意思によります。
- ・ 回答したくない質問がありましたら、無理に回答する必要はありません。
- ・ 回答を途中で止めたくなつた場合には止めても、ご協力を撤回してもいかなる不利益も生じません。
- ・ 研究の内容にご意見ご質問がありましたら、実施責任者にお尋ねください。
- ・ 研究へのご協力については、依頼書に基づいて口頭および文書で説明を行い、同意書のご署名により同意を頂いたものとして実施いたします。

#### 5. 調査に関するお問い合わせ先

研究責任者 筑波大学人間系 准教授 八重田 淳

連絡先：E-mail：jyaeda@human.tsukuba.ac.jp Tel：03-3942-6830

本研究は筑波大学人間系研究倫理委員会東京地区委員会の承認を受けて実施しております。本研究の倫理的な問題につきましては、筑波大学人間系研究倫理委員会東京地区委員会（社会人大学院等支援室・研究支援担当）までご連絡ください。

筑波大学社会人大学院等支援室・研究支援担当

連絡先 Tel：03-3942-6919, E-mail:hitorinri@un.tsukuba.ac.jp

## 資料6 研究対象者からの同意書

筑波大学人間系長 殿

### 同意書

「就労継続支援 B 型事業所における精神障害者等に対する支援の実態と効果的な支援プログラム開発に関する研究 1（2020 年度）」にかかる面接調査について説明者より次の事項について説明を受け、内容を理解した上で、面接調査に協力することを同意しました。

#### 説明を受けた事項

- 研究の概要とその目的
- 面接方法について
- 研究における倫理的配慮
- 本人の自由意思に関する同意であること
- 同意後も不利益を受けず随時撤回できること
- 同意しない場合も不利益を受けないこと
- 個人情報保護されること
- メモや録音などの面接データの取り扱い
- 研究結果の発表形態

令和 年 月 日

氏名： \_\_\_\_\_

「就労継続支援 B 型事業所における精神障害者等に対する支援の実態と効果的な支援プログラム開発に関する研究 1（2020 年度）」のため面接調査実施にあたり、書面及び口頭により、令和 年 月 日に説明を行い、上記のとおり、同意を得ました。

説明者：筑波大学人間系准教授

氏 名： \_\_\_\_\_

筑波大学人間系長 殿

## 同意撤回書

「就労継続支援B型事業所における精神障害者等に対する支援の実態と効果的な支援プログラム開発に関する研究1（2020年度）」の研究にかかる面接調査について説明者より説明を受け同意しましたが、再度検討した結果、同意を撤回いたします。

\_\_\_\_年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日

氏名：\_\_\_\_\_

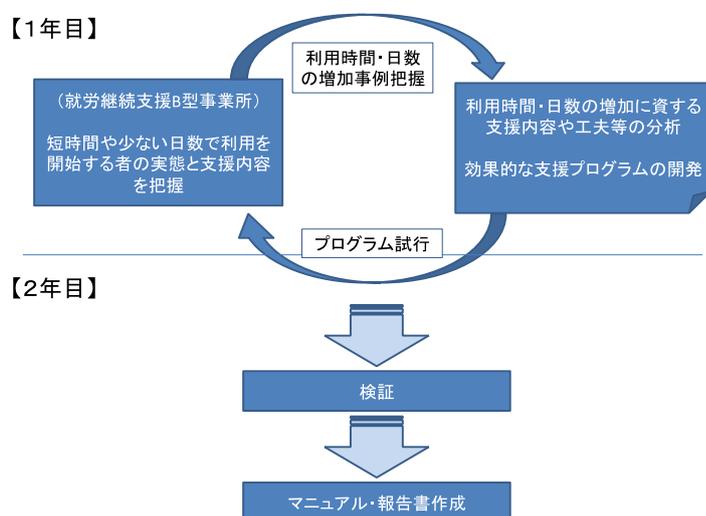
## 資料8 インタビューガイド

- (コ) 現在の事業所の利用日数についてどう思いますか？
- (サ) 現在の工賃についてどう思いますか？
- (シ) 現在のあなたの総収入のうち自由に使える交際費に余裕はありますか？
- (ス) 現在の事業所におけるあなたの働きがいとは何ですか？
- (セ) A型事業所や一般企業就職への関心はありますか？
- (ソ) 事業所に行きたくないと思うときは、どのようにして過ごされていますか？
- (タ) あなたが幸せに感じる時はどんな時ですか？
- (チ) 仕事以外ではどのような地域活動をされていますか？
- (ツ) それらの地域活動は事業所利用の動機になっていますか？

## 資料1 具体的な研究実施計画書

### 「就労継続支援 B 型事業所における精神障害者等に対する支援の実態と効果的な支援プログラム開発に関する研究 2」(2020 年度; 下図の 2 年目に該当)

#### 2. 研究デザイン



#### 3. データ収集方法

##### 質問紙郵送調査

- [1] 母集団：全国の就労継続支援 B 型事業所 11,887 事業所（国保連データ平成 30 年 6 月）
- [2] サンプルング方法：系統的ランダムサンプルング法により、WAM ネット等から主に精神障害のあるサービス利用者の就労継続支援を行っている事業所を 2,000 カ所選定（セルフ協会・じゅさんれんの協力を得て実施。特に精神障害利用者の多い事業所が特定できた場合は 60 箇所程度に絞ることも検討）。10,000 名のサンプルのうち、100 名をランダムサンプルにて抽出し、TUCP II-J を 2 回、48 時間の間隔で実施し、再テスト法による信頼性を確認する。
- [3] 残りの 9,900 名を母集団とした本郵送調査をランダムサンプルングにより 2,000 名を目標に実施する（ただし、セルフ協会、じゅさんれんのリストにおける最大サンプル数がこれを下回る場合には、該当数を全数調査とする）。
- [4] また、精神障害者区分の中でもさらに利用数の少ないてんかんのある利用者へは、研究分担者（藤川真由）のてんかん研究フィールドである宮城県内の就労継続支援 B 型事業所における約 100 名に対し質問紙郵送調査を依頼する。
- [5] 回収されたデータの分析には、記述統計および多変量解析の手法を用いる。
- [6] 本調査票（資料 3）（TUCP II—J 含む）の質問内容は、性別、年齢、事業所利用日数、利用日数に対する感想、利用に数増加への気持ち、当該月前月の工賃月額、工賃月額への気持ち、工賃以外の収入に対する気持ち、総収入のうち自由に使える交際費、事業所における働きがい、一般企業就職への関心、最低賃金以上での仕事への関心、事業所に行きたくないと思う曜日、事業所利用阻害要因、本人が笑顔になる時の状態、支援者が効果的と判断したプログラムへの期待度、一般的な働きがい、仕事以外に希望する活動、専門的な支援への期待、地域活動尺度による活動状態、設問 24 項目（計 105 項目；記入所要時間 15 分程度-当事者プレテストによる平均時間）で構成する。
- [7] 本調査における調査票の発送、回収、入力には民間調査会社に委託して実施し、回収調査票は一定期間を経て粉砕廃棄する。

様

実施責任者 筑波大学人間系 准教授 八重田 淳

調査研究ご協力について（ご依頼）

拝啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、この度 2020 年度厚生労働科学研究費補助金「就労継続支援 B 型事業所における精神障害者等に対する支援の実態と効果的な支援プログラム開発に関する研究 2（2020 年度）」（19GC0601）を継続的に執り行うこととなりました。

つきましては、下記の目的による調査研究へのご協力を頂けますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

なお、面接内容については、以下に示すような研究協力者のプライバシー保護および、倫理的配慮について遵守しますので、ご安心頂ければ幸いです。本調査への協力にご承諾をいただける場合には、ご回答頂いた調査票をご返送ください。本研究の趣旨をご理解の上、どうぞご協力頂きたく、ご依頼申し上げます。

敬具

記

1. 実施責任者 筑波大学人間系 准教授 八重田 淳  
連絡先：E-mail：jyaeda@human.tsukuba.ac.jp Tel：03-3942-6830

調査名と目的

調査名：就労継続支援 B 型事業所における精神障害者等に対する支援の実態と効果的な支援プログラム開発に関する研究 2(2020 年度)

目的：全国の B 型事業所を利用している精神障害者の方々を主対象とした質問紙により、事業所の利用や工賃に対する思いや、働きがい、一般企業就職への関心、事業所利用の阻害・促進要因、効果的と判断される支援への期待度、仕事以外に希望する活動、地域活動の状態などを伺い、新たなプログラム開発の基礎資料を得ることを目的とします。

2. 調査の概要

質問紙調査の回答にかかる時間は約 15 分を想定しております。

3. 調査の方法

研究協力依頼書、調査票、返信用封筒を調査対象機関のサービス管理者に郵送し、精神障害のある利用者全員に研究依頼書、調査票、返信用封筒を手渡して頂き、回答後に投函して頂きます。調査票がお手元に届いてから 2 週間程度を目安にご回答いただけますと幸いです。

4. プライバシーの保護

- ・ 質問紙は無記名であり、個人を特定できません。
- ・ 回答データはすべてプライバシーに配慮した処理を行いますので、個人が特定されることはございません。
- ・ 回答データはコード化し個人を特定できない数値・記号等として、特定の USB メモリに保存した上、施錠できるロッカーに保存します。このデータは研究終了から、一定期間経過後に粉碎・破棄します。
- ・ 得られたデータは本研究のみに使用し、研究を公表する際は個人を特定できるような情報は一切公表しません。

#### 5. 倫理的配慮に関して

- 本調査は調査対象者の自由意思に基づき、調査対象者の同意の下に実施されます。同意をしない場合にも調査対象者が不利益を被ることはありません。また、調査開始後や調査終了後でもいつでも不利益を受けずに随時撤回できます。
- 調査は回答に要する時間的負担に配慮し、質問内容を約 15 分程度で実施できる量とします。
- 調査対象者の調査票への回答をもって、同意を得たものと致します。
- 調査対象者の匿名性は維持されます。
- 得られたデータは本研究のみに使用し、研究を公表する際には調査対象者個人を特定できるような情報は一切公表致しません。

#### 6. 結果の報告について

本調査の結果概要は、厚生労働省ホームページにて厚生労働科学研究費補助金事業報告をご参照頂けましたら幸いです。

#### 7. 調査に関するお問い合わせ先

研究責任者 筑波大学人間系 准教授 八重田 淳

連絡先：E-mail：jyaeda@human.tsukuba.ac.jp Tel：03-3942-6830, 090-4091-8014

#### 8. その他

本研究は筑波大学人間系研究倫理委員会東京地区委員会の承認を受けて実施しております。本研究の倫理的な問題につきましては、筑波大学人間系研究倫理委員会東京地区委員会（社会人大学院等支援室・研究支援担当）までご連絡ください。

筑波大学社会人大学院等支援室・研究支援担当

連絡先 Tel：03-3942-6919, E-mail:hitorinri@un.tsukuba.ac.jp

# 就労継続支援 B 型事業所における精神障害者等に対する支援の実態と

## 効果的な支援プログラム開発に関する調査 2 (2020 年度)

各設問に対し、該当する選択肢（数字）に○をつけてください。

問 1. 性別 1. 男性 2. 女性 3. その他

問 2. 現在おいくつですか？

1. 20 歳代 2. 30 歳代 3. 40 歳代 4. 50 歳代 5. 60 歳代 6. 70 歳代以上

問 3. あなたが利用している B 型事業所を、過去 30 日間で、何日利用されましたか？

1. 0 日 2. 1 日～3 日 3. 4 日～6 日 4. 7 日～9 日  
5. 10 日～12 日 6. 13 日～15 日 7. 16 日以上

問 4. 上記の利用日数について、あなた自身はどのように感じていますか？

1. 少な過ぎる 2. 少ない 3. ふつう 4. 多い 5. 多過ぎる

問 5. B 型事業所を利用する日数をもっと増やしたいと思いますか？

1. 全く思わない 2. あまり思わない 3. 少しそう思う 4. そう思う

問 6. あなたが利用する B 型事業所での先月の工賃月額、次のうちどれに該当しますか？

1. 5,000 円未満 2. 5,000～10,000 円未満  
3. 10,000～15,000 円未満 4. 15,000～20,000 円未満  
5. 20,000～25,000 円未満 6. 25,000～30,000 円未満  
7. 30,000～45,000 円未満 8. 45,000 円以上

問 7. 上記の工賃月額について、どのようにお考えですか？

1. 少な過ぎる 2. 少ない 3. ふつう 4. 多い 5. 多過ぎる

問 8. B 型事業所の工賃をもっとあげて欲しいと思いますか？

1. そう思わない 2. あまり思わない 3. ややそう思う 4. そう思う

問 9. B 型事業所の工賃以外の収入を含めると、経済的な充足感はどの程度でしょうか？

1. 全く足りない 2. あまり足りない 3. やや足りている 4. 足りている

問 10. 現在の総収入のうち、あなたが趣味や交際などで自由に使えるお金はひと月でどの程度ですか？

ひと月でおよそ ( ) 円

問 11. B 型事業所の月額工賃として、「本当はこのくらいは欲しい」という希望があればお書きください。

ひと月でおよそ ( ) 円

問 12. 現在の B 型事業所における働きがいについて、どのようにお考えですか？

1. ない 2. あまりない 3. 少しはある 4. ある

問 13. 現在の B 型事業所から、A 型事業所、就労移行支援事業所、一般雇用へのステップアップを希望しますか？

1. 希望しない 2. あまり希望しない 3. やや希望する 4. 希望する

問 14. 一般企業での就職に関心はありますか？

1. 全くない 2. あまりない 3. ややある 4. とてもある

問 15. 最低賃金以上での仕事に関心はありますか？

1. 全くない 2. あまりない 3. ややある 4. とてもある

問 16. 月曜～金曜のうち、B 型事業所にできれば行きたくない曜日はありますか？

1. 月曜 2. 火曜 3. 水曜 4. 木曜 5. 金曜 6. 特にない

問 17. 特にこんな時は B 型事業所に行きたくないという日はどのような時ですか？

	事業所に行きたくないと思う時	とてもそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
1	体調が優れない時	1	2	3	4
2	朝起きられないような時	1	2	3	4
3	人と会いたくない気分の時	1	2	3	4
4	天気が悪い時	1	2	3	4
5	工賃の低さを感じる時	1	2	3	4
6	自分の居場所がないように感じる時	1	2	3	4
7	認められたと感じない時	1	2	3	4
8	社会的意義を仕事に感じないような時	1	2	3	4
9	楽しいと思えない時	1	2	3	4

問 18. あなたはどのような時に笑いますか？

	どんな時に？	笑わない	あまり笑わない	少し笑う	笑う
1	良い知らせを聞いた時	1	2	3	4
2	面白い話を聞いた時、見た時	1	2	3	4
3	家族と一緒にいる時	1	2	3	4
4	親しい友人や恋人と一緒にいる時	1	2	3	4
5	仕事をしている時	1	2	3	4
6	働いた賃金をもらった時	1	2	3	4
7	何かがうまくいった時	1	2	3	4
8	自分を肯定できた時	1	2	3	4
9	人から褒められた時	1	2	3	4
10	プレゼントを買った時	1	2	3	4

問 19. B 型事業所における下記の支援は、あなたにとってどの程度効果が期待できると思いますか？

	支援内容	効果は			
		期待できない	あまり期待できない	やや期待できる	期待できる
1	出勤時間を、体調にあわせて変更する	1	2	3	4
2	休憩スペース等を事業所内に設け、一人になれる場所を作る	1	2	3	4
3	作業時間が長時間とならないように適宜、休憩を入れる	1	2	3	4
4	利用者の家族やキーパーソンによる協力を得る	1	2	3	4
5	作業の速さと量を、体調にあわせて調整する	1	2	3	4
6	タイミングを見計らって、コミュニケーションをとる	1	2	3	4
7	利用者と支援者が、一緒に作業を行う	1	2	3	4
8	寛容で協力的な職場風土を作る	1	2	3	4

問 20. あなたが働きたいを感じる時は、どんな時ですか？

	どんな時に？	働きたいを			
		感じない	あまり感じない	やや感じる	感じる
1	誰かの役に立っていると感じる時	1	2	3	4
2	仕事が楽しい時	1	2	3	4
3	体調が良い時	1	2	3	4
4	収入を多く得た時	1	2	3	4
5	仕事を褒められた時	1	2	3	4
6	仕事以外で何かを褒められた時	1	2	3	4
7	マイペースで仕事ができた時	1	2	3	4
8	人間関係がうまくいっている時	1	2	3	4
9	作業に没頭している時	1	2	3	4
10	仕事以外の趣味や余暇活動が充実している時	1	2	3	4

問 21. あなたが仕事以外で希望することはどんなことですか？満ち足りている場合は0に丸をつけてください。

	仕事以外の希望	満ち足りている	全く希望しない	あまり希望しない	やや希望する	とても希望する
1	恋愛したい	0	1	2	3	4
2	運動・スポーツでもっと体を動かしたい	0	1	2	3	4
3	なんでも話せる人にそばにいて欲しい	0	1	2	3	4
4	趣味や特技をもっと身につけたい	0	1	2	3	4
5	一人でも楽しめる方法を知りたい	0	1	2	3	4
6	もっと色々なことを勉強したい	0	1	2	3	4
7	自然に触れるような旅をしたい	0	1	2	3	4
8	偏見なくふつうに自然に接して欲しい	0	1	2	3	4
9	好きなだけ寝たい	0	1	2	3	4
10	オシャレをして外に出かけたい	0	1	2	3	4

問 22. 下記の支援をどの程度希望しますか？

	希望する支援	全く希望しない	あまり希望しない	やや希望する	とても希望する
1	いつでもできる電話相談	1	2	3	4
2	音楽療法	1	2	3	4
3	スポーツ・レクリエーション療法	1	2	3	4
4	恋愛相談	1	2	3	4
5	人生相談	1	2	3	4
6	一般雇用支援	1	2	3	4
7	大学以上での高等教育支援	1	2	3	4
8	芸術療法	1	2	3	4
9	経済支援	1	2	3	4
10	家族支援	1	2	3	4

問 23. あなたの過去 30 日間の地域における活動についてお聞きします。

A：スタッフの付き添い無しで何日その活動をしたか、その日数をご記入ください。

・ もし、その活動を過去30日間で何も活動していなければ、活動日数は、0日、になります（下の記入例の8、図書館の例をご覧ください）

B：その活動をしていますか？十分、不十分、やりすぎ、で該当する番号に○をつけてください。

・ 過去30日間でふりかえて見て、その活動はこれ以上行う必要がない、今のままで十分だと思う場合は「十分」という選択肢になります。

・ 過去30日間でふりかえて見て、その活動をもっとしたいと思っていたが、満足にできなかった場合は「不十分」という選択肢になります。

C：その活動はあなたにとって重要ですか？該当する番号に○をつけてください。

記入例

	過去30日間のうち、スタッフの付き添いなしで何日その活動をしましたか？	A. 活動日数(スタッフ付き添い無し)	B. この活動をしていますか？			C. この活動はあなたにとって重要ですか？	
			十分	不十分	やりすぎ	はい	いいえ
8	図書館や博物館に行く。	0日	1	2	3	1	0
16	地域のサークル（例：趣味グループ、音楽・スポーツ活動のグループ等）に参加する。	5日	0	2	3	1	0

	過去30日間のうち、スタッフの付き添いなしで 何日その活動をしましたか？	A. 活動日数(ス タッフ付き添い 無し)	B. この活動をしていますか？			C. この活動はあなたに とって重要ですか？	
			十分	不十分	やりすぎ	はい	いいえ
1	楽しみを兼ねてスーパー、コンビニ、ショッピングセンター、デパート、他の小売店、バザー等に行く。	___日	1	2	3	1	0
2	食堂、レストランやカフェに行く。	___日	1	2	3	1	0
3	教会、神社、お寺等に行く。	___日	1	2	3	1	0
4	映画を見に行く。	___日	1	2	3	1	0
5	公園やスポーツセンターへ行く。	___日	1	2	3	1	0
6	演劇もしくは他の文化的イベントに行く(例：地域の学校やクラブのイベント、コンサート、展示会、講演会等)。	___日	1	2	3	1	0
7	動物園、植物園に行く。	___日	1	2	3	1	0
8	図書館や博物館に行く。	___日	1	2	3	1	0
9	スポーツイベントを見に行く(例：野球、サッカー、バスケットボール等)。	___日	1	2	3	1	0
10	フィットネスジム、健康・運動クラブ(プール等)、で体を動かすに行く。	___日	1	2	3	1	0
11	チームの一員としてスポーツ大会(例：野球やサッカーの試合等)や他の集団身体活動(例：ダンス、ヨガ等の教室等)に参加する。	___日	1	2	3	1	0
12	将棋やトランプ、オンラインゲーム等を自宅外、例えば友人宅等とする。	___日	1	2	3	1	0
13	自宅で将棋、トランプ、オンラインゲーム等を自宅でする(その相手とバーチャルで対峙している場合も含む)。	___日	1	2	3	1	0
14	気分転換を兼ねて理容室、美容室、ネイルサロン、スパに行く。	___日	1	2	3	1	0
15	公共交通機関を使う(バス、地下鉄、他の電車等)。	___日	1	2	3	1	0
16	地域のサークル(例：趣味グループ、音楽・スポーツ活動のグループ等)に参加する。	___日	1	2	3	1	0
17	賃金の支払われる仕事(フルタイム、アルバイト、B型事業所勤務等)をする。	___日	1	2	3	1	0
18	ボランティア活動に参加する(もしくは賃金なしに他人の手助けをする)。	___日	1	2	3	1	0
19	学位や資格取得のために学校に行く(例：高等学校卒業程度認定試験、大学、職業訓練校、仕事の研修など)。	___日	1	2	3	1	0
20	余暇や日常生活活動に関連したクラスに参加する(例：料理教室、手芸、陶芸、写真等)。	___日	1	2	3	1	0
21	地域で行われる集まり、イベントやお祝い(例：結婚式、誕生日会等)に家族と参加する。	___日	1	2	3	1	0
22	地域で行われる集まり、イベントやお祝い(例：結婚式、誕生日会等)に友人と参加する。	___日	1	2	3	1	0
23	家族を自宅に招待する、もしくは家族を訪ねる。	___日	1	2	3	1	0
24	友人を自宅に招待する、もしくは友人宅を訪ねる。	___日	1	2	3	1	0
25	学校や仕事、ご近所さんや他の知り合いと会う(例：飲み会)	___日	1	2	3	1	0
26	地域住民会、地域清掃日、他の地域イベント等に参加する。	___日	1	2	3	1	0
27	市民活動や政治活動・団体に参加する。	___日	1	2	3	1	0

以下の質問では、あなたの親密なパートナーや子どもとの関係性についてお聞きします。

28	あなたは現在ご結婚もしくは同棲されていらっしゃいますか？	はい	いいえ					
----	------------------------------	----	-----	--	--	--	--	--

もしあなたが現在結婚もしくは同棲されていない場合（28の質問で「いいえ」と答えた方）は、次の質問にお答えください

	項目	日数	この活動をしていますか？			この活動はあなたにとって重要ですか？	
			十分	不十分	やりすぎ	はい	いいえ
29	過去30日間において、何日あなたが彼氏もしくは彼女であると認識している人と会いましたか？	___日	1	2	3	1	0

30	あなたには子ども（養子を含む）がいますか？	はい	いいえ				
----	-----------------------	----	-----	--	--	--	--

31	もしあなたに子供がいる場合（30の質問で、はいと答えた方）、その子どもと一緒に住んでいますか？	はい	いいえ				
----	---	----	-----	--	--	--	--

子どもがいるが子どもと一緒に住んでいない場合（30の質問で「はい」、31の質問で「いいえ」、と答えた方）は、次の質問にお答えください。

	項目	日数	この活動をしていますか？			この活動はあなたにとって重要ですか？	
			十分	不十分	やりすぎ	はい	いいえ
32	過去30日間において、何日その子どもと会いましたか？	___日	1	2	3	1	0

問 24. 本調査に関するご意見やご要望等がございましたら、下記の余白に自由にお書きください。

★質問は以上です。この調査票を三つ折りにし、返信用封筒に入れ、厳封し、郵便ポストにご投函ください。

（当該施設等で一括して返送される場合は、厳封の上、ご担当者様にお渡しください。）

この度は、本調査にご協力を頂き、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。